

平成 30 年度インテリア・キッチン関係の調査・研究活動助成報告書

助成テーマ

小さな子供を持つ共働き世帯におけるキッチン使用状況からみる食生活

平成 31 年 3 月 15 日

白石ゼミ・松崎ゼミ共同チーム

目次

1. 研究の背景と目的	1
2. 研究方法	2
2. 1 「小さい子供」の定義	2
2. 2 調査項目の設定	2
2. 3 調査用紙及び調査WEBの作成	4
2. 4 回答者数	4
3. 調査結果	5
3. 1 回答者のプロフィールについて	5
3. 2 平日の食生活に関する質問について	8
3. 3 食品に関する質問について	14
3. 4 キッチン設備に関わる質問	16
4. 考察	18
5. 参考資料	19
参考資料1	19
参考資料2	26

1. 研究の背景と目的

近年、女性の社会進出とともに、待機児童の問題がマスコミ等でさかんに報道されている。待機児童の問題は一つの大きな社会問題になっているが、一方で小さいお子さんを持ち、保育所等に預けている共働き世帯も相当数いることが理解できる。このような世帯の多くでは、平日は両親のどちらかが子供を保育所等に迎えに行くと思われる。このため、食事をするまでの時間や食事の準備に時間的な制約があるものと推測される。

それでは、このような世帯では主に平日どのような料理を作り、食事をしているのだろうか。仮説の一つとして、休日に比べ、平日はあまりキッチンを利用していないのではないかと想像される。さらに、共働き状態が長く続くことにより、平日のこのような食事状況は意外に長く続くことが想像され、このような食生活全般が子供達に何らかの影響を与えていく可能性も十分考えられる。

そして、このような状況に置かれている彼らがキッチンに対してどのような要望を持っているのかを知っておくことも必要であると考え。

そこで、まず小さな子供を持つ共働き世帯のキッチンの利用状況（食事までの準備工程（調理等）を含め）や食事の実態を把握することが必要と考え、本研究の目的とした。得られた知見は、今後も増加していくと想定される共働き世帯の食生活のあり方を考える基礎資料になると考えられる。

2. 研究方法

本研究では、主にアンケート調査を用いて、小さい子供世帯のキッチンや食生活全般に関わる実態の把握を行うことを中心に考えた。

計画段階では調査用紙によるアンケート用紙を中心に考えていたが、調査の基本的なこととして、回答しやすいこと、かつ個人情報保護法に留意することがあげられる。

そこで、本調査では回答に対する抵抗をできるだけやわらげることを目的とし、紙による調査よりも WEB 上のアンケートを中心に実施した方が望ましいのではないかと考え、グループフォームを利用して調査を行った。(実際には、一部アンケート用紙を配布し、調査も行っている。)

また、対象は保育施設や幼稚園に子供を預けている世帯を想定していたが、下記に述べるように「小さい子供」をどう定義するのか、そして被調査対象者数も集まるのか等も考慮し、調査を実施した。

2. 1 「小さい子供」の定義

実際に調査項目を考えていく段階で、小さい子供の年齢をいくつまでに設定するのは設定しておく必要があると考えられた。また、実際にアンケートを依頼する対象者を設定する場合、そして結果を解釈する際にも重要な点になると考えた。

そこで、本調査では小学生までを小さい子供と考え、調査を考えていくこととした。これはあくまで経験的な判断が基になっているが、親が外出する際に子供を自宅に一人で置いていって心配する年齢はいくつくらいかと考えたとき、小学生以下ではないかと考えたからである。多くの親は、子供が中学生にもなれば心配はしないだろう、と考えられる。

2. 2 調査項目の設定

まず、実際に共働き世帯でかつ小さい子供を持つ奥様にインタビュー調査を行い、現状を確認した。基本的には、我々が想定しているような状況が確認できたので、実際の調査項目の検討を行った。

大項目として、(1) 回答者のプロフィール、(2) 平日の食生活に関する質問、(3) 食品に関する質問、(4) キッチン設備に関わる質問を設定し、次に、それぞれについて細かい項目を設定した。

(1) 回答者のプロフィールに関する質問

以下の項目について、質問を行った。

①性別

②年齢層 (各年代の前半・後半)

- ③世帯人数
- ④1番下の子供の年齢
- ⑤上の子供の年齢（子供が2人以上いる場合）
- ⑥夫婦の勤務形態
- ⑦親の住まい（までにかかる時間）

（2）平日の食生活に関する質問

- ①平日自宅に戻ってから夕食までの時間
- ②食事の準備にかかる時間
- ③平日の夕食の準備担当者（調理、配膳、食器洗い）
- ④平日自宅に戻ってから夕食までの時間
- ⑤食事の準備にかかる時間
- ⑥平日の夕食の準備担当者（調理、配膳、食器洗い）
- ⑦休日の夕食の準備担当者（調理、配膳、食器洗い）
- ⑧子供の手伝い
- ⑨子供の食育
- ⑩平日の夕食にかかる時間（一緒に食事をしている人全員が終わるまでの時間）
- ⑪平日の夕食をとる場所
- ⑫平日の食事の準備におけるキッチンへの要望

（3）食品に関する質問

- ①平日夕食時の平均的食品数（ご飯と味噌汁は含まない）
- ②子供が増えてからの中食（市販の惣菜等）の利用率
- ③市販の惣菜・冷凍食品・休日に作った作り置き料理の利用頻度
- ④市販の惣菜・冷凍食品・作り置き料理の夕食1回あたりの品数
- ⑤栄養のバランス

（4）キッチン設備に関わる質問

- ①所有しているキッチン設備
- ②キッチン作業の効率化を図る重要な機能
- ③これから欲しいキッチンでの設備機器またはツール（機能）

ただし、WEBアンケートが回答しやすいとはいえ、回答に長い時間がかかるようなアンケートでは正確なデータは得られない可能性があるとして想定し、長くても10分以内で回答できるように項目数を限定した。

また、実際にはアンケート用紙を使用する場合もあるので、この場合も回答時間は10分以内と考え、調査項目数を設定している。

具体的なWEBアンケート調査については、末尾の参考資料を確認してほしい。

2. 3 調査用紙及び調査WEBの作成

上記の調査項目をもとに、時間をかけずに、回答しやすいように、グーグルフォーム上で作成する。なお、アンケート用紙はWEB上の調査項目をプリントして実施した。

2. 4 回答者数

アンケート項目を設定し、グーグルフォーム上に作成後、共働き世帯であり、小さい子供を持つ方々に回答を依頼した。回答期間は、約1か月である。

アンケート回答者は、計58名（内アンケート用紙での回答が8名）である。

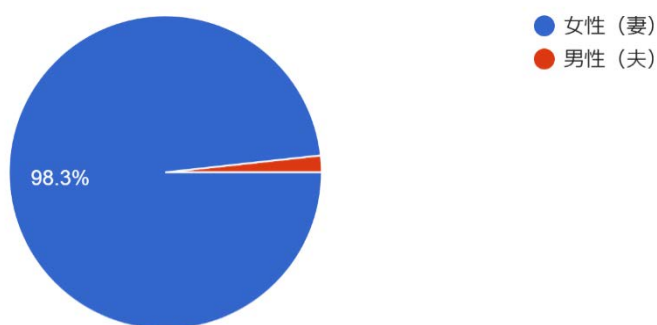
3. 調査結果

3. 1 回答者のプロフィールについて

(1) 回答者の性別

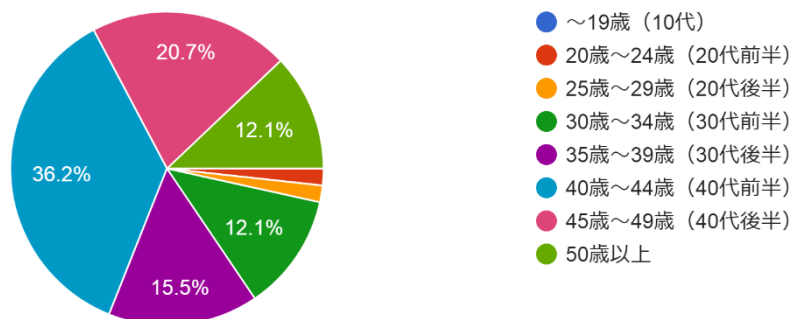
ほとんど女性のみでの回答者となっている。

この理由としては、今回の調査にあたり女性を中心に調査の依頼をしたことが主な原因と考えられる。



(2) 回答者の年齢層

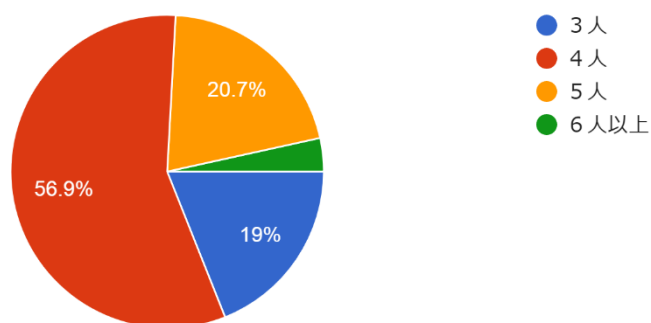
30代の回答者が27.6%、40代の回答者が56.9%となっており、両年代をあわせて84.5%になっており、小さい子供を育てている世帯の母親の年代としてはほぼ予想通りの回答となっている。



(3) 回答者の世帯人数

一般には、3人世帯が4人世帯よりも多くなっているとの結果がある。この世帯人数には様々な家族構成が考えられるが、基本は夫婦と子供との構成が多いと考えられ、子供が一人という世帯が増えていると推測されている。

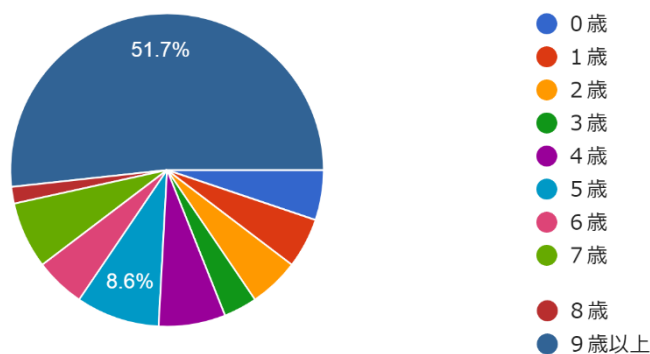
これに対し、本調査の回答者の世帯人数は4人世帯が56.9%と最も多く、次に5人世帯が20.7%とそれに次ぎ、3人世帯は19%となっている。この調査では内訳を聞いていないので、夫婦以外の人数が子供のみかどうかは不明である。



(4) 1番下の子供の年齢

下の子供が9歳以上（小学生の高学年）の方が51.7%と半数を占めているが、一方で0～1歳の子供を持ちながら共働きをしている回答者も存在した（5名）。

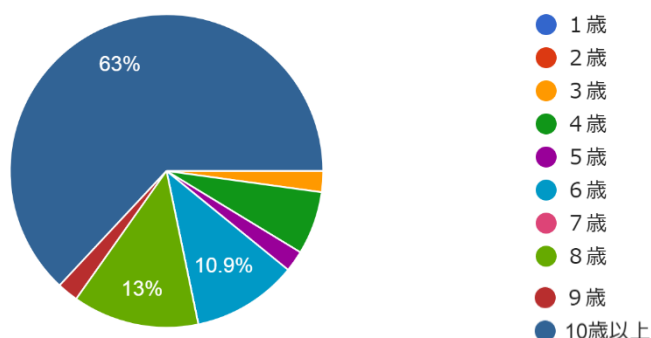
（なお、本調査からでは確認はできないが、下の子供が9歳以上ということは、この子供の兄や姉がいる場合は夫婦の働く状況は多少変化することが想像される。）



(5) 下から2番目の子供の年齢

上の子供は10歳以上という回答者が63%であった。

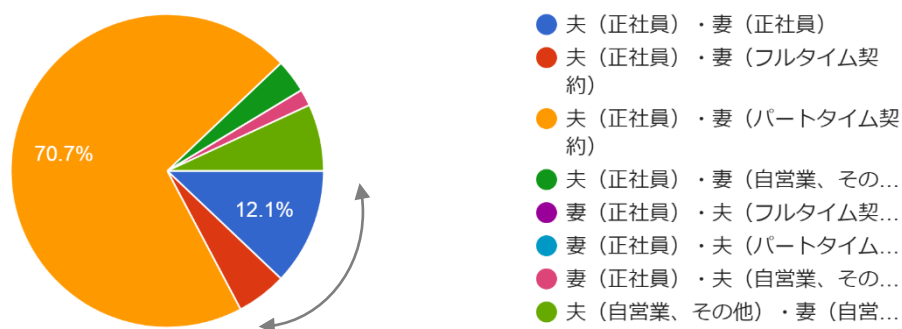
(4)の質問と関連して、10歳以上が中学生なのか、小学生の高学年なのかにより、共働き夫婦の働き方（家庭に帰らねばならないといった時間の制約）は多少緩和されている可能性もある。しかし、今回は調査対象を厳密に設定しなかったために、この点に関しては不明な点が出てしまった。



(6) 夫婦の勤務形態

夫婦ともにフルタイムで働いている回答者は約2割であり、夫が正社員で妻がパートタイムで働いている回答者は約7割で、残りの約1割が自営業であった。

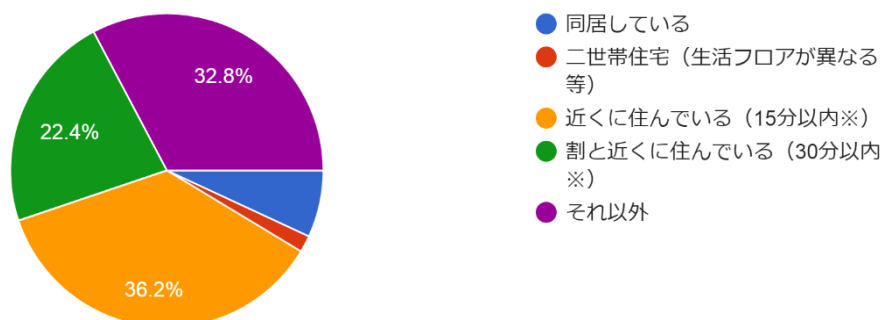
妻がパートタイムの契約で働いている理由としては、子供を保育園等に迎えに行く時間がとれる、自宅での食事等の家事に時間が取れることなどが考えられる。



(7) 親の住まい

基本的には、近距離に親が住んでいる（同居・二世帯住宅を含む）との回答者が約7割弱と多い。これらの世帯では、緊急の仕事等で子供を保育園に迎えに行けない、子供を預かってもらえるなど、いざという時には親に助けを頼めることができると想像される。

一方で、遠距離に親が住んでいる回答者も3割強存在している。



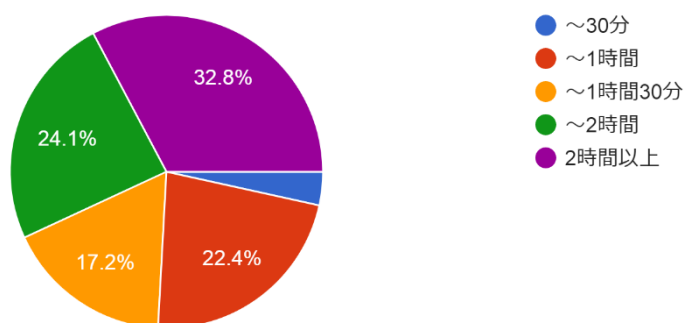
3. 2 平日の食生活に関する質問について

(1) 平日自宅に戻ってから夕食までの時間

自宅に戻ってから夕食までの時間については、バラツキのある回答になっている。各家庭の状況が一律でないことを表しているとも考えられる。

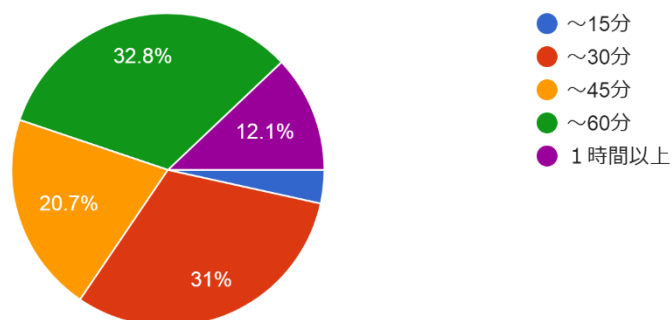
2時間以上が32.8%、2時間が24.1%となっており、5割以上の回答者が2時間以上かかっていることになる。夕食までにやらなければいけない家事を結構多いことがうかがえる。また、一方で1時間以内が約4分の1となっている。

今回の調査は食事を中心に考えた調査としたため、帰宅時間は質問していない。今後、帰宅時間や夕食の開始時間を調べることで、実際の状況がより詳細にわかるものと思われる。

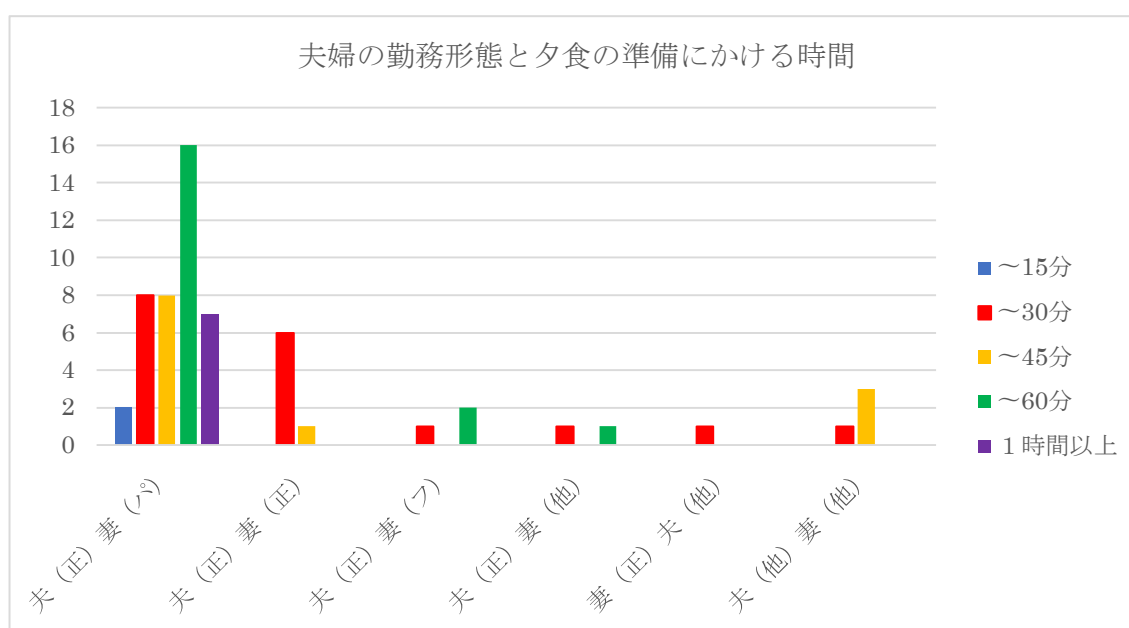


(2) 食事の準備にかかる時間

上記の質問に関連して、平日自宅に戻ってから夕食までの時間の中で食事の準備にかかる時間である。約9割の回答者が60分以内と回答しており、その中でも30分以内が約4割弱である。自宅に戻ってから、食事の準備以外の家事に半分以上の時間をとられていることがわかる。



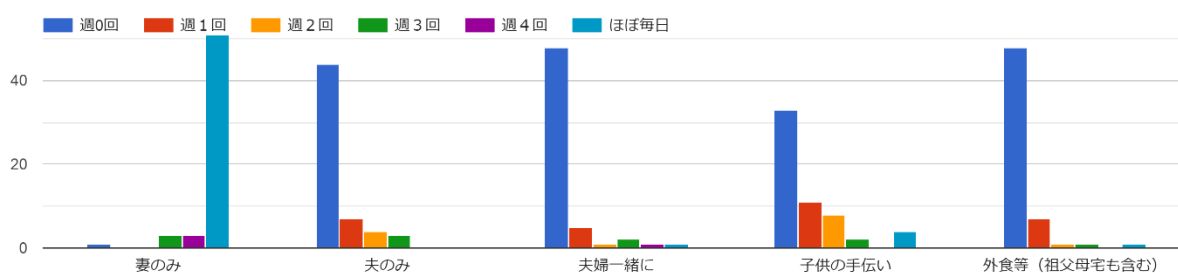
ただし、夫婦の勤務形態別にみると、妻の勤務形態がパートタイム契約の場合は、60分以内が最も多い回答になっていて、1時間以上との回答も存在する。一方、妻の勤務形態が正社員及びフルタイム契約の場合では、夕食の準備にかかる時間は30～45分以内が多い結果となっている。やはり妻が正社員やフルタイムの場合は、食事の準備に時間をかける余裕がないことが理解できる。



(3) 平日の夕食の準備担当者（調理、配膳、食器洗い）

この結果から、食事の準備はほぼ毎日妻が行っており、夫の手伝いはほとんどないことがわかる。これは、夫がフルタイムで働いている世帯が回答者の中心であることが理由の一つであると推測される。

食事の準備ということで、子供のお手伝いに関してもこの中で聞いてみたが、半数以上の世帯で平日はお手伝いをさせていないことがうかがえる。

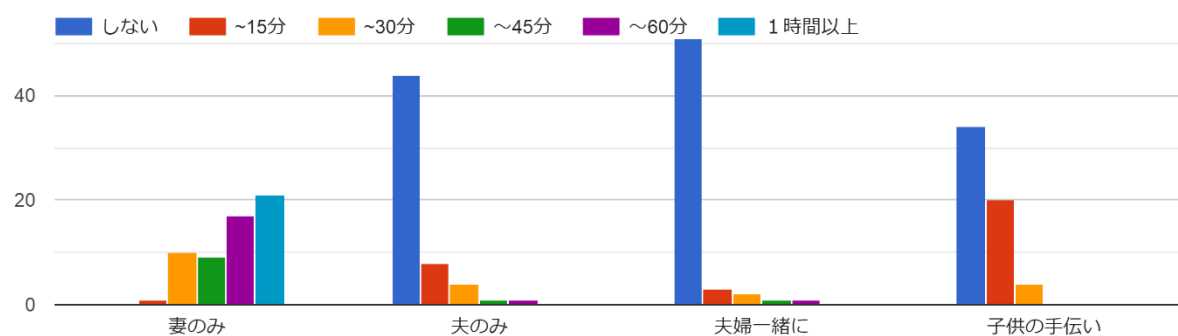


(4) 平日夕食の準備時間（1回平均）

上記の準備担当に関連して、準備時間を質問した。

(3)の結果より準備担当は妻が多いので、当然ながらこの設問結果は(2)の回答結果とほぼ同じになっている。

子供のお手伝い時間は15分以内が多い。小さい子供であるから、簡単なお手伝いと想定される。(6)の設問を参照)

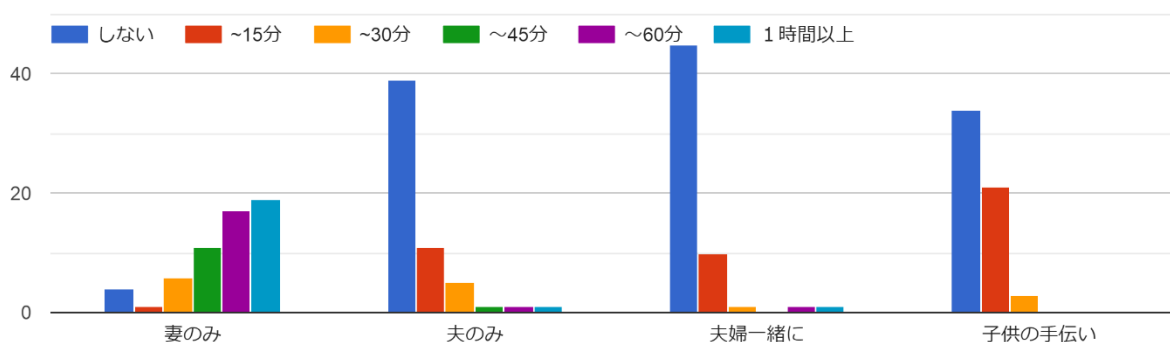


(5) 休日の夕食の準備担当者（調理、配膳、食器洗い）

休日の夕食の準備も、平日の傾向とほぼ変わらず、妻が中心に行っていることがわかる。多少、夫の参加がみてとれるが、この結果からは食事の担当は妻が中心であることがわかる。

近年、若い世代では夫婦による家事の分担が進んでいると言われているが、食事は妻が中心だとすれば、その他の家事を夫が担当しているものと推測される。

また、キッチン関連の設備メーカーなどでは、夫と妻が交代であるいは一緒に食事を作るシーンをCMやカタログ等に掲載しているが、今回の調査結果から家事の役割分担の推測から考えると、そのような時間は意外に少ないように思える。

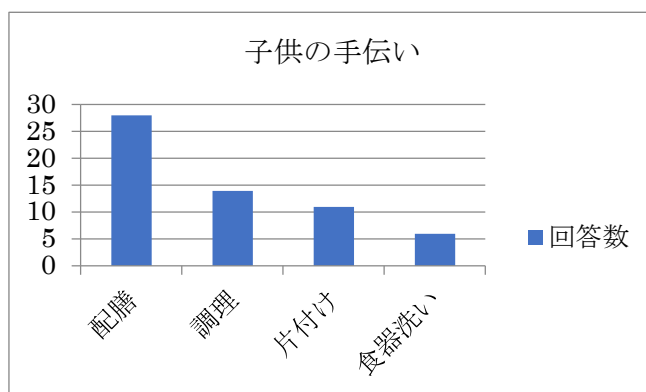


(6) 子供の手伝い

キッチンにおける子供の手伝いに関しては自由記述での回答を求めたが、46名から回答があった。記述内容をもとに、配膳・調理・片付け・食器洗いの4種類に分類した。（なお、自由記述であるので、一人の記述の中に複数の内容が記述されていることもある。この場合、それぞれをカウントしているため、回答者数と回答数に違いがある。）

配膳には「お箸や取り皿等の準備」といったことがあげられる。調理では、「米を研く」や「盛り付ける」といったことがあげられている。片付けには、「食べ終わった食器の片付け」があげられている。食器洗いでは、文字通り「食器洗い」となっている。

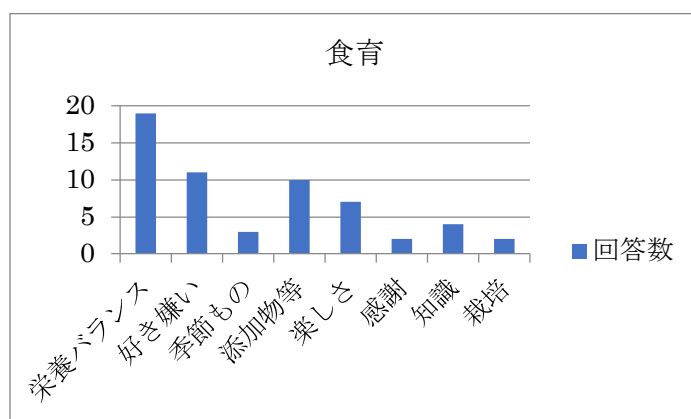
なお、片付けと食器洗いは同じような意味合いであるが、子供の年齢によりこのような記述の違いが生まれたものと推測される。



(7) 子供の食育

食育に関しても自由記述での回答を求め、44名から回答があった。(なお、自由記述であるので、一人の記述の中に複数の内容が記述されていることもある。この場合、それぞれをカウントしているため、回答者数と回答数に違いがある。)

自由記述により得られた食育に関する回答を整理したところ、「栄養バランス」「好き嫌いなく」「季節の食材利用」「添加物を控える」「食の楽しさ」「食への感謝」「食の知識」「家庭菜園」にまとめられた。



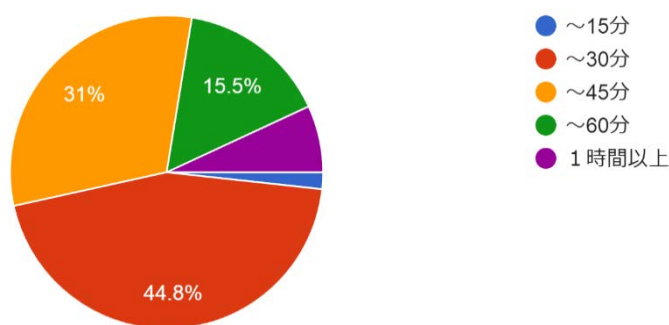
(8) 平日の夕食にかかる時間（一緒に食事をしている人全員が終わるまでの時間）

約8割の回答者が45分以内と回答している。準備時間は1時間以内の回答者が約9割であったが、それより若干短い時間で夕食を終えていることがわかる。

これまでの結果から、自宅に戻ってから食事をするまでの平均時間は約2時間、食事の時間が平均で約45分となるので、自宅に戻ってから食事を終えるまでの平均的な時間は約3時間弱と推測できる。

子供たちは、この後にお風呂に入り、寝るまでにはさらに1時間程度を要するであろう。そして、夫婦がゆっくりと過ごせる時間はそこからである。自宅に戻る時間にもよるが、共働きの夫婦は自宅に戻ってからかなり時間に追われていることが推測できる。

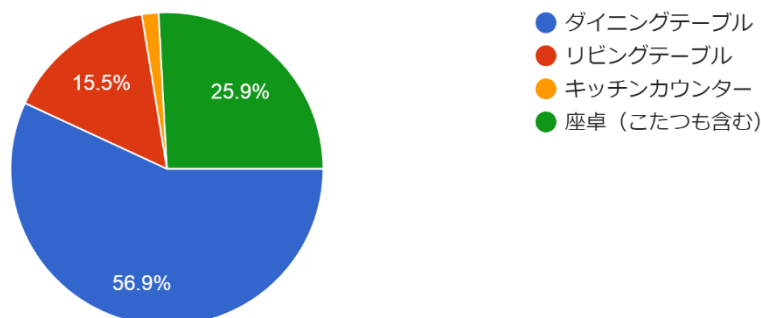
日々の仕事にもよるが、夫婦の時間を増やすためには、食事の準備の効率化が一つの方向であると考えられる。



(9) 平日の夕食をとる場所

予想通り、ダイニングテーブルが 56.9%と最も多い回答であった。

一方、座卓との回答も 25.9%と予想以上に多い回答であった。今回の調査では、住まい全体のこと（総床面積、間取り等）を質問していないために推測の域を出ないが、住宅全体のスペースに影響されている可能性も考えられる。

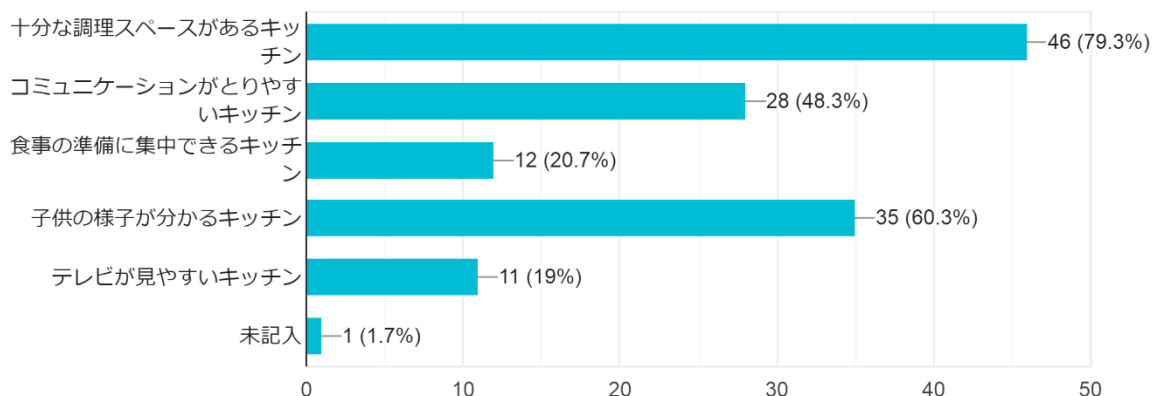


(10) 平日の食事の準備におけるキッチンへの要望

キッチンへの要望としては、良い選択肢を設定できなかつたと反省しているが、想定される回答結果を得られたと考えている。

約 8 割の回答者が、十分な調理スペースが欲しいと回答している。次に多かった要望が、子供の様子がわかるキッチンであった。現在の調理スペースは回答者にとって十分ではないことを表している。この調理スペースの不満の中心が、調理台の面積なのか、あるいはキッチン全体の面積なのかについて、今後調べていく必要がある。

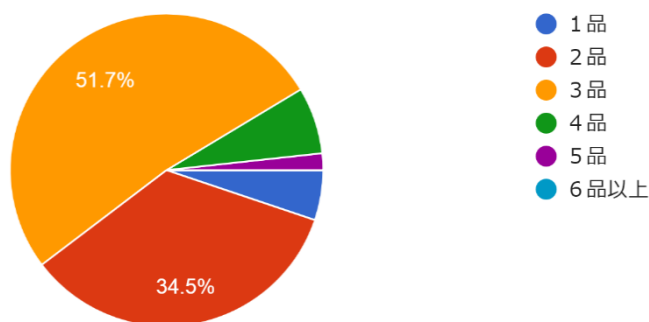
コミュニケーションがとりやすいキッチンは約半数と低くはないが、3 番目の要望となっている。この理由の一つとして、食事の準備時間が約 1 時間と結構長くとられるため、コミュニケーションをとりたくてもとる余裕がないためではないかと推測される。



3. 3 食品に関する質問について

(1) 平日夕食時の平均的食品数（ご飯と味噌汁は含まない）

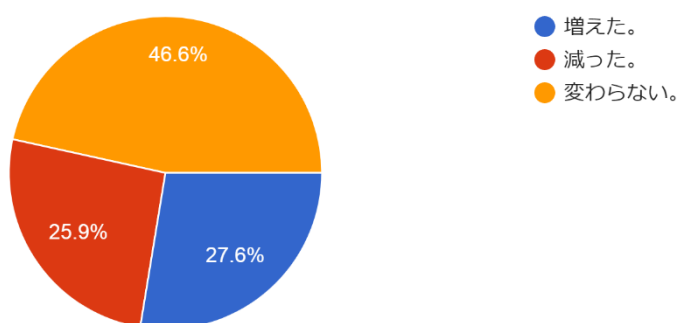
食品数は平均的に2～3品との回答がほとんどであり、86.2%である。食事の準備のことを考えれば、ほぼ妥当な結果と言える。



(2) 子供が増えてからの中食（市販の惣菜等）の利用率

調査前には、子供が増えたことにより家事全体のボリュームが増え、惣菜等の利用率がアップするかと予想していたが、増えたという回答者は27.6%にとどまった。この回答結果は、次の質問と併せて考えるべきであろう。

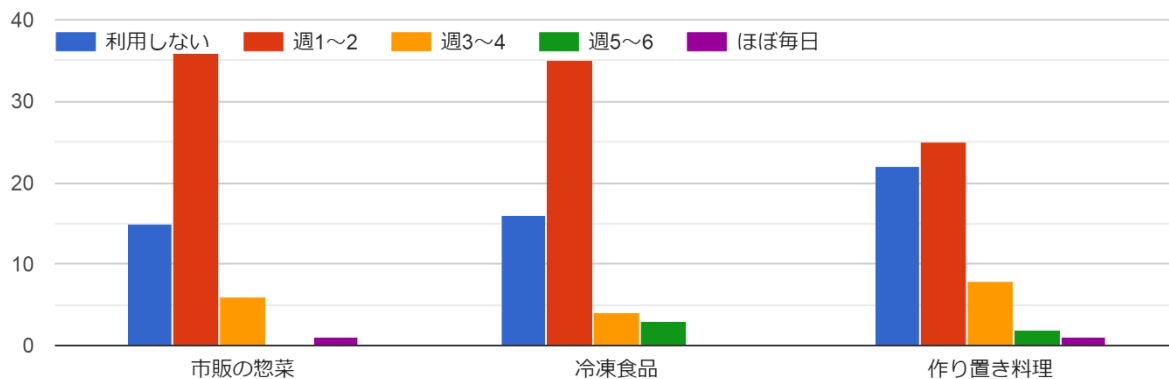
また、減ったとの回答者も25.9%と約4分の1になった。別の回答によれば、子供の健康を考え、惣菜を利用しなくなったと回答している人がいる。単に便利だから利用するというのではなく、食の安全も考慮しているとの回答であり、子供の健康第一と考え、減らしている世帯もありそうである。



(3) 市販の惣菜・冷凍食品・休日に作った作り置き料理の利用頻度

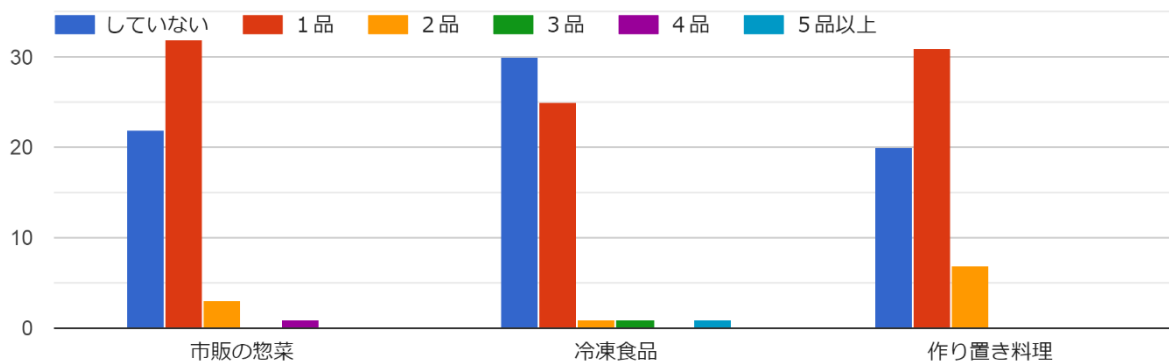
上記の質問では、ほぼ変わらないとの共働き世帯が半数であったが、市販の惣菜、冷凍食品の利用頻度はそれぞれ週1～2回あることがわかる。つまり、両者を合わせれば実際には

ほぼ毎日このような商品を利用していることがわかる。この理由については質問していないが、やはり食事の準備時間の効率化と推測される。



(4) 市販の惣菜・冷凍食品・作り置き料理の夕食1回あたりの品数

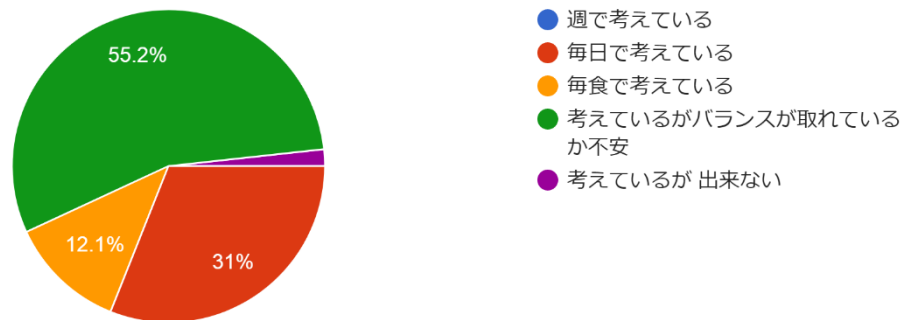
上記(3)の質問からほぼ毎日これらの惣菜類を利用しているわけだが、これらの毎日の品数はほぼ1品程度であることがわかった。



(5) 栄養のバランス

当然のように、栄養のバランスを考えている人がほぼ100%と言ってよいであろう。しかし、約半数(55.2%)の人がバランスが取れているかどうか不安を感じている。

現実には、食事の準備時間の制限、上記にもあるように惣菜や冷凍食品の利用をしていることなどから不安を抱えている可能性も考えられる。

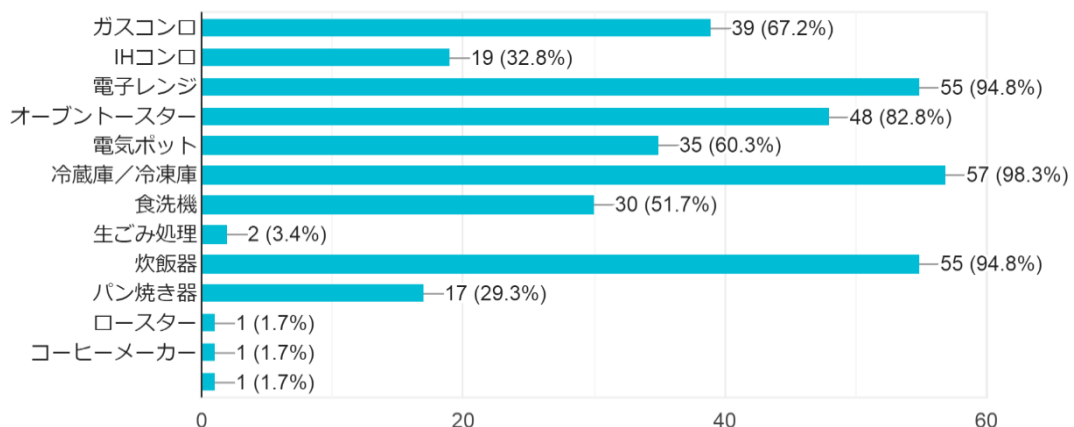


3. 4 キッチン設備に関わる質問

(1) 所有しているキッチン設備

所有率が9割を超えている設備としては、冷蔵庫（冷凍庫）、電子レンジ、炊飯器である。なお、ガスコンロとIHコンロで100%になっている。今後はIHコンロが増えていくと予想される。また、オーブントースターが約8割を超えていることから、パン食が確実に定着していると想像できる。（オーブントースターは様々な使い方ができるとは思われるが、オーブンのような使い方はできないため、パンを焼くことが主な利用状況と推測している。）

従来では所有率が少なかったと思われる食洗機は、今回の調査では約半数の世帯で所有されている。食後の後片付けの時間を作る事ができる食洗機は今後さらに所有率がアップするものと推測される。

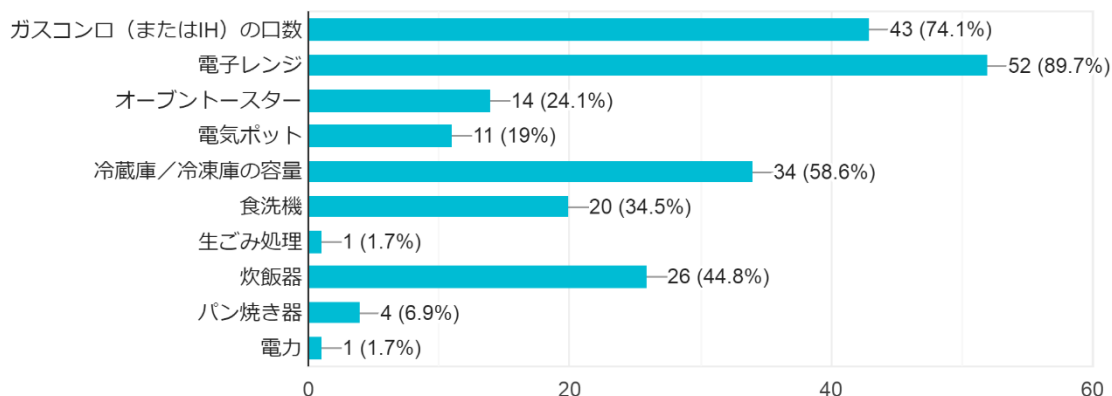


(2) キッチン作業の効率化を図る重要な機能

ここでは、自由記述も考慮し、設備ではなく、機能という言葉で質問している。

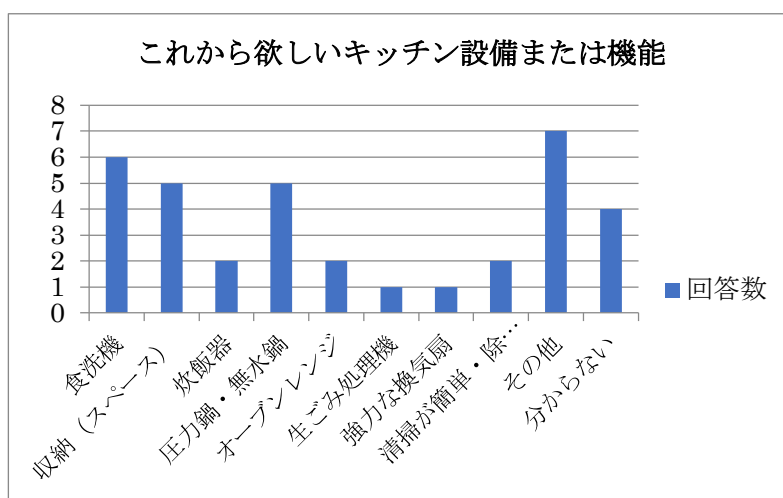
最も重要と考えられているのは、電子レンジで約 9 割の回答があった。次に重要と考えられているのは、コンロの口数であり、約 7 割強の回答があった。

また、効率化という点では、冷蔵庫はそれほどの期待はもたれていないようである。CM 等によれば、最近の冷蔵庫には様々な機能がついていて、平日の家庭で冷蔵庫を上手に利用しているシーンも見受けられるが、現実には浸透していないのかもしれない。



(3) これから欲しいキッチンでの設備機器またはツール (機能)

複数の回答があった設備機器はで、「食洗機」・「収納 (スペース)」・「圧力鍋」の回答が多かった。食洗機は片付けの時間を効率化することは理解できるので、多かったものと思われる。また、収納に関しては、現在のキッチンにおける収納スペースが少ないことを表していると思われる。また、圧力鍋により時間の短縮が図れるのでほしいとの回答があり、ここでも時間の効率化を前提に回答していることがわかる。



4. 考察

今回の調査は、実態把握を最優先と考えて実施し、上記のような結果を得た。実態把握であるから、得られた結果がすべてであるが、考察として他の参考資料内に似たような項目があった部分についてのみ、それぞれの結果について比較・考察を加えている。

ここでは、従来の調査研究の成果（参考資料2）との比較をしながら、考察を進めていく。

橋詰豊（日本調理化学会誌、2003年）によれば、働く女性の増加により、中食が増えているとまとめている。同様に、宍谷顕子等（農業経済研、2015年）も、妻が働いている場合、外食材の支出が上がるとの調査結果があった。我々も実際に調査する前には、同様な想定をしていた。しかし、今回の調査では惣菜等の利用率は子供ができてから増えている割合と子供ができてから減った割合と比較すると、ほぼ同じ結果であった。

一方、村田ひろ子等（放送研究と調査、2016年）によれば、「どの家庭も家事は妻任せ」であるとの結果をまとめている。この結果に関しては、本調査結果でも「食事に関わる部分」はほぼ同様な傾向であったと言える。夫婦共働きの場合、夫も何らかの家事を担当している可能性はあると思われるが、食事に関してはほぼ妻が中心であることがわかった。

また、村田ひろ子等（放送研究と調査、2016年）によれば、主婦の39%は食品の安全性を重視しているとの結果をまとめている。本調査では、各世帯が惣菜や冷凍食品の使用がほぼ毎日1品程度あることが把握できたが、一方で子供が増えた後に惣菜等の利用を減らしている世帯も4分の1（25.9%）いることがわかった。この調査結果から、安全性に気を配っている主婦が同様に一定数いることが理解できた。

上記のように、他の研究と比較してみると、同じような傾向である点や異なる傾向がある点も見受けられた。

ただし、他の文献等からはモノを作っていく側の立場としての調査結果は出てこなかった。すべてを調べきれたわけではないが、学会関連の論文等にはほとんどみられていない。この点からは、本調査における「キッチンに対する要望」や「キッチン作業の効率化を図る重要な機能」に対する回答は、当然の回答と思われるような結果であるが、確認ができたという点では意味あるものと考えられる。

上述したように、今回の調査は実態把握を最優先と考えて実施した。しかし、出発点だからこそ反省点も多くある。まず、今後はさらに回答者数を増やしていくことが必要であろう。また、幅広い視野から質問項目を設定し、より総合的な立場から分析していけるような調査を行うべきであると考えている。そして、総合的な立場に立つことにより、キッチンに関わる食生活に対して新たな分析軸を設定し、再度調査研究を行うことが必要であると考えている。

参考資料1：アンケート内容（グーグルフォームによる Web アンケート）

共働き世帯の調理・食生活に関する調査

千葉工業大学の白石研究室・松崎研究室です。この度は当アンケートにご協力いただきありがとうございます。昨今のライフスタイルの変化と食生活やキッチンのあり方について調査しており、ご記入いただいたデータは本調査研究の目的以外に使用いたしません。10分程度で完了しますので、ご回答よろしくお願いたします。

（注：質問についています「*」は回答が必須の項目です。）

（1）回答者プロフィール

ご回答いただく方のプロフィールをご記入ください。

① ご自身の「性別」を教えてください。*

- 女性（妻）
- 男性（夫）

② ご自身の「年齢層」を教えてください。*

- ～19歳（10代）
- 20歳～24歳（20代前半）
- 30歳～34歳（30代前半）
- 35歳～39歳（30代後半）
- 40歳～44歳（40代前半）
- 45歳～49歳（40代後半）
- 50歳以上

③ 「世帯人数」を教えてください。*

- 3人
- 4人
- 5人
- 6人以上

④ 「1番下のお子様の年齢」を教えてください（お子様がお一人の場合はここで回答）。 *

- 0歳
- 1歳
- 2歳
- 3歳
- 4歳
- 5歳
- 6歳
- 7歳
- 8歳
- 9歳以上

⑤ 「その上のお子様の年齢」を教えてください（お子様が1人の場合は回答なし）

- 0歳
- 1歳
- 2歳
- 3歳
- 4歳
- 5歳
- 6歳
- 7歳
- 8歳
- 9歳
- 10歳以上

⑥ ご夫婦の「勤務形態」を教えてください。 *

- 夫（正社員）・妻（正社員）
- 夫（正社員）・妻（フルタイム契約）
- 夫（正社員）・妻（パートタイム契約）
- 夫（正社員）・妻（自営業、その他）
- 妻（正社員）・夫（フルタイム契約）
- 妻（正社員）・夫（パートタイム契約）
- 妻（正社員）・夫（自営業、その他）
- 夫（自営業、その他）・妻（自営業、その他）

⑦ 「親の住まい」についてお聞きします。 *

※徒歩・自転車・鉄道・バス・自家用車など、普段使用している方法でかかる時間

- 同居している
- 二世帯住宅（生活フロアが異なる等）
- 近くに住んでいる（15分以内※）
- 割と近くに住んでいる（30分以内※）
- それ以外

（2）平日の食生活に関する質問

所要時間に関わる質問 平均的な数値（例えば、平均時間）で回答してください。

① 平日自宅に戻ってから「夕食までの時間」を教えてください（食事の準備を含みます）。 *

- ~30分
- ~1時間
- ~1時間30分
- ~2時間
- 2時間以上

② 上記の回答時間の中で、食事の「準備にかける時間」を教えてください。 *

- ~15分
- ~30分
- ~45分
- ~60分
- 1時間以上

③ 平日夕食の準備（調理、配膳、食器洗い）は「誰が週5回のうち何回」行いますか？ *

	週0回	週1回	週2回	週3回	週4回	ほぼ毎日
妻のみ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
夫のみ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
夫婦一緒に	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の手伝い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
外食等（祖父母宅も含む）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

④ 平日夕食の準備（調理、配膳、食器洗い）は「誰がどのくらいの時間」（1回平均）行いますか？ *

	しない	～15分	～30分	～45分	～60分	1時間以上
妻のみ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
夫のみ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
夫婦一緒に	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の手伝い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

⑤ 「休日」夕食の準備（調理、配膳、食器洗い）は「誰がどのくらいの時間」（1回平均）行いますか？ *

	しない	～15分	～30分	～45分	～60分	1時間以上
妻のみ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
夫のみ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
夫婦一緒に	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子供の手伝い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

⑥ お子様は「どのようなお手伝い」をしますか（する場合は具体的に記述）。

⑦ お子様の「食育」についてどのように考えていますか（考えている場合は具体的に記述）。

⑧ 平日「夕食にかかる時間」を教えてください（一緒に食事をしている人全員が終わるまでの時間）。 *

- ～15分
- ～30分
- ～45分
- ～60分
- 1時間以上

⑨ 平日「夕食をとる場所」を教えてください *

- ダイニングテーブル
- リビングテーブル
- キッチンカウンター

- 座卓（こたつも含む）
- その他：（自由記述）

⑩ 平日夕食の準備において、キッチンはどのようなものにしたいですか（複数回答可）。 *

- 十分な調理スペースがあるキッチン
- コミュニケーションがとりやすいキッチン
- 食事の準備に集中できるキッチン
- 子供の様子が分かるキッチン
- テレビが見やすいキッチン
- その他：（自由記述）

（3）食品に関する質問

① 平日夕食時の「食品数の平均」を教えてください（ご飯と味噌汁は含まない）。 *

- 1品
- 2品
- 3品
- 4品
- 5品
- 6品以上

② 子供が増え、夫婦二人の時と比べて、「中食（市販の惣菜等）の利用率」に変化はありましたか。 *

- 増えた。
- 減った。
- 変わらない。

③ 市販の惣菜、冷凍食品、休日に作った作り置き料理の「利用頻度」はどの程度ですか。 *

	利用しない	週1～2	週3～4	週5～6	ほぼ毎日
市販の惣菜	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
冷凍食品	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
作り置き料理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

④ 市販の惣菜、冷凍食品、休日に作った作り置き料理の夕食1回あたりの「品数」はどの程度ですか。 *

	してしない	1品	2品	3品	4品	5品以上
市販の惣菜	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
冷凍食品	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
作り置き料理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

⑤ 「栄養のバランス」はどのように考えていますか。 *

- 週で考えている
- 毎日で考えている
- 毎食で考えている
- 考えているがバランスが取れているか不安
- その他：（自由記述）

（4）キッチン設備に関わる質問

① 所有している「設備」を教えてください（複数回答可）。 *

- ガスコンロ
- IHコンロ
- 電子レンジ
- オーブントースター
- 電気ポット
- 冷蔵庫／冷凍庫
- 食洗機
- 生ごみ処理
- 炊飯器
- パン焼き器
- その他：（自由記述）

② キッチン作業の効率化を図る「重要な機能」はなんですか（複数回答可）。 *

- ガスコンロ（またはIH）の口数
- 電子レンジ
- オーブントースター

- 電気ポット
- 冷蔵庫／冷凍庫の容量
- 食洗機
- 生ごみ処理
- 炊飯器
- パン焼き器
- その他：（自由記述）

③ これから欲しいキッチンでの設備機器またはツール（機能）は何ですか（具体的に記述）。

アンケートは以上です。以下の送信ボタンを押して終了となります。ご協力いただき誠にありがとうございました。

参考資料 2 : 文献資料のまとめ

タイトル	調査からみえる日本人の食卓～「食生活に関する世論調査」から①～
発表年月日	2016 年11 月
発表冊子	放送研究と調査(世論調査部)
発表者	村田ひろ子/ 政木みき/ 萩原潤治
キーワード	
概要	<p>1. 家族と同居していると行事食を食べる人が多い 家族と同居している人と一人暮らしの人を比べると、家族と同居している人の方が行事食を食べたという人が多い。 さらに、家族と同居している人のうち、高校生以下の子供が「いる」人と「いない」人に分けてみると、「クリスマスケーキ」「節分の巻き寿司」「年越しそば」の3 つでは、「いる」人の方が、「いない」人よりも多く食べている。 子供と共に家族で囲む食卓で、これらの行事食が食べられる様子がうかがえる。</p> <p>2. 家族と食卓を囲むと満足度が高くなる 家族と食卓を囲んでいる人は孤食の人と比べて20% 以上も満足度が高い。</p> <p>3. 安全重視の主婦 食品を買うとき重視することを「新鮮」「安全」「価格」「味」「手軽さ」「栄養」の項目で調査すると「安全」を重視する人が未就学児の親が32%、主婦では39% と他の項目と比べて多く、安全志向の人が多いことが分かる。</p>

タイトル	家族と食の関係は変わるのか～「食生活に関する世論調査」から②～
発表年月日	2016年11月
発表冊子	放送研究と調査
発表者	村田ひろ子/ 政木みき
キーワード	家族との外食、家事分担、子供に料理を教える父親
概要	<p>1. 家族で食事をとりたいたがなかなかとれないでいる 「家族だと感じるときはどんなときか」を調査すると76%が「自宅で食事をしているとき」と答え、多くが「家族」と「食」を結びつけている一方、「毎日」家族全員で食事をしている家庭が38%、次いで「週に1~2日くらい」が21%と毎日食卓を囲んでいる食卓は少ない。</p> <p>2. 家族との夕食が楽しいと思う人が減少 「家族揃って夕食を取ることは楽しい」人は家族と同居している人は76%と大多数だが10年前と比べると8%減少している。一方、「家族揃って夕食を食べると家族の絆が強まる」という人は50%から55%へ増加している。 食卓が家族の絆を強める場として意識されているのとは裏腹に、無条件に楽しいものではなくなくなってきている。</p> <p>3. どの家庭も家事は妻任せ 食事作りを妻もしくは夫だけでしている家庭、または夫婦で分担している家庭がどの程度あるのかを調査すると、男性で「自分と配偶者」で分担している人は片働き世帯13%、共働き世帯18%と有意差はないが、配偶者のみが片働き世帯76%、共働き世帯61%で共働き世帯の方が少ないが、共働きでも6割を超える人が妻任せである。 他方、女性をみると「自分だけで作る」が片働き世帯85%、共働き世帯でも72%に上る。共働き世帯で「自分と配偶者」で分担しているという人は11%と、片働きの5%よりは多いが、高い割合とは言えない。</p> <p>4. 親から料理を教わった男性ほど料理をする 男性で親との料理体験が「ほとんどなかった」人は、いま「料理をしている」人が41%にとどまるのに対し、親との料理体験が「あった」人では59%が「料理をしている」。一方、女性でいま「料理をしている」人は、親との体験が「ほとんどなかった」人でも86%に上るが「あった」という人では93%とさらに多くなる。 親と料理をする環境に育ったかどうかと、のちに自分が料理をするかどうかには関連がみられ、特に男性で大きな違いがある。</p> <p>5. 親から料理を教わった男性ほど子供に料理を教える 高校生までの子供がいる人に、子供と一緒に台所に立って料理を教えたり、手伝いをさせたことがあるかを調査すると、66%の親が「ある」と答え、60%だった10年前と比べて増加している。 男女別で子供との体験が「ある」という人は、母親では約70%で10年前とほぼ変わらないのに対し、父親は42%から58%と増えている。 料理を介して子供と関わる父親が増えていることは、子供が多くの場面で料理の経験を積む経験となっているだろう。 子供と料理することが「ある」人は、親との料理体験が「ほとんどなかった」人では51%であるが、「よくあった」人では82%に上る。親との料理体験がある人ほど、自分でも料理をしていて、子供にもよく教えているという傾向がみられ、親から子への教育の効果がうかがえる。料理を学ぶ子供が増え、大人になってから料理をするようになり、さらに子供にも教えるといった循環が生まれれば、男性でも料理をする人が増えるのではないだろうか。</p>

タイトル	共働き家族の増加に伴う住宅の変化
発表年月日	1991 年
発表冊子	織消誌
発表者	旭化成工業(株) 共働き研究所 村田省三
キーワード	女性の社会進出 DINKs 家事分担意識
概要	<p>1. 雇用者として働く主婦が増加 主婦の半分が就労しており、時代が進むに連れてその割合が増加している。その背景に労働力不足、雇用機会均等法の施行、パートタイム市場の拡大、設備機器による家事の軽減化、子供数の減少などといった原因がある。</p> <p>2. 東京の主婦の家事負担が大きい 東京と欧米の「朝食の支度」を比べると、毎日用意する人が東京では97% に対し、ニューヨークやロンドンでは半数以下で、ロンドンでは「まったくやらない人」が31% もいる。また、夫の家事参加率にも問題があり、「朝食の支度」をしている夫が東京が0%、ニューヨーク、ロンドンでは15% と家事分担の意識の差が現れている。 このことから東京の共働き家族は主婦の犠牲の上に成り立っていると言える。</p> <p>3. 女性の就労意識の変化 「妻の収入が世帯収入に占める割合」が高い家庭は夫の家事参加率が高い傾向にあり、家事の合理化、外部化によって家事負担を減らしている。また、仕事を継続し続けている妻が半数を占め、「働くのは当然のこと」と考える妻も多く、結果的に夫の家事参加率に影響を与えている。</p>

タイトル	家庭内食の行方
発表年月日	2003 年
発表冊子	日本調理化学会誌
発表者	橋詰豊
キーワード	核家族化、個食化、中食の利用
概要	<p>1. 中食利用の増加 コンビニエンスストアの普及により、中食の利用が急速に増加。若者に限らずコンビニはいつでも利用できることから、家庭の中に浸透してしまった。個食化してきたどんな場面でも利用しやすく、一人分、一食分を基本の販売量に設定している。若者に限らず、一人暮らしや昼の主婦など孤食に対応した販売方法である。 他にも、働く女性が仕事を終え、家庭に帰ってから時間のかかる手料理を作ることができないため、従来では手抜きとも言われかねない中食の利用に対する意識が変化し、中食の利用が高まった。</p> <p>2. 家庭環境の変化 核家族化が進み、家のローン返済、職場環境の多様化、女性の職場進出などの要因が加わることによりカギツ子が増加し、サラリーマン世代の差別化としての高収入を求めて、教育の高レベル化、塾通いなどにより親だけでなく子供も家にいる時間が少なくなってきた。 そして、家庭で料理をすることが少なくなった母親はその娘に料理を教えることが減少し、現在の若者では料理の仕方がわからないものもあるほどになっている。親の世代は料理ができるがする時間がない、その子供は料理ができないしする気もない世代となってしまった。</p>

タイトル	配偶者の就業状況と子供の有無が食料消費行動に与える影響
発表年月日	2015 年
発表冊子	農業経済研
発表者	究谷顕子/ 草苺仁
キーワード	食料消費、属性、支出弾力性
概要	<p>1. 「子供なし」世帯では妻が働いているほど内食が少なくなる</p> <p>「子供なし」世帯の支出弾力性を比べると就業している人と無職の人では就業している人は内食材料の消費支出が少なく、外食材料の消費支出が多い。 反対に無職の人は内食材料の消費支出が多く、外食材料の消費支出は少ない。 就業している人は時間制約が強いので、消費支出の増減によって内食の需用量を調整できない結果、非弾力的になっている。</p> <p>2. 「子供あり」世帯では内食の支出弾力性が大きくなる</p> <p>「子供あり」世帯だと子供がいることによって親は時間制約の緩和に努めるため「子供なし」と比べて就業の有無による時間制約の影響が収縮・平準化する。 結果として就業している人の内食の支出弾力性が大きくなった。</p>

タイトル	「夫婦と食」に関する意識調査
発表年月日	2015年10月1日
発表冊子	熱と暮らし通信(リンナイ株式会社)
発表者	リンナイ
キーワード	時間 内食 中食 団らん
概要	<p>1. 「経済的余裕」「生活のメリハリ」「社会とのつながり」 共働きで良かった点の上位3つが上記であった。また、男女別でみると女性は男性に比べ社会とのつながりや人とのつながりに共働きで良かったと感じている傾向があるとわかった。</p> <p>2. 共働きの悩みは「時間」 「家事に費やす時間」や「家族が病気の時」「趣味の時間」「家族の時間」が取れず、特に食事時間の遅さや調理にかかる時間が少ないことを大変と感じている傾向にある。</p> <p>3. 外食より「内食」「中食」派 時間がない中でも合わせ調味料や電子レンジの活用、テイクアウトなどを利用して自宅で食事をとる工夫をしていることがわかった。その傾向は若ければ若いほどみられる。 8割以上の夫婦が「食卓」でコミュニケーションをとっていることがわかった。一緒にいる時間の確保のためや、一緒に食べるとより美味しく感じるなどの理由があげられた。</p> <p>4. コミュニケーションの場は「食卓」 自宅で食事をとることで一番喜びを感じることは「家族や友人と団らんすること」であった。大切な人と同じ空間で食を楽しむことが重要視されていることがわかった。</p> <p>5. 食で感じる喜び 自宅で食事をとることで一番喜びを感じることは「家族や友人と団らんすること」であった。大切な人と同じ空間で食を楽しむことが重要視されていることがわかった。</p>

タイトル	センターキッチンにおけるコミュニケーション機能
発表年月日	2004年
発表冊子	人間環境学研究 第4 巻2 号
発表者	押岡由美・城仁士(株式会社旭化成リフォーム・神戸大学)
キーワード	キッチンのボーダレス化
概要	<p>1. ボーダレス化の要因</p> <p>1: 女性の社会進出に伴いキッチンが家族の共有空間に</p> <p>2: 家族の時間が短い中で家族全員の利用頻度の高いキッチン空間がよりオープンであることが求められている。</p> <p>3: 調理や食事に対する認識が多様化する中で、キッチン空間もそうした価値観に合わせて多様化している。</p> <p>2. 現在のキッチンに対する満足度</p> <p>L・D・K のそれぞれを独立させるのではなく、食事を媒体としてLDK の空間を一体化させることによって、団らんの満足度が高くなっている。また、独立型LD+K においては来客の際に限って満足度が高かった。</p> <p>3. センターキッチンに対するイメージ</p> <p>センターキッチンの認知度は高かったものの使ってみたくないという人は少なかった。その背景として整理整頓などの物理的側面への不安があげられた。しかし、センターキッチンにおけるコミュニケーションについては全体的に高い評価であった。また、家族以外とのコミュニケーションについても評価が高かったことから、キッチンに他人が入ることへの抵抗感があまりないことがうかがえる。</p> <p>4. センターキッチン利用者の声</p> <p>1: 収納スペースをオープンにすることで誰でも調理に参加できる環境作りをしていて、子供が調理に参加できる環境作りがキッチンを共有空間とする上で重要。</p> <p>2: センターキッチン内での自身の動線を十分配慮した上で収納計画をすることで以前のキッチンよりも負担が軽減された。</p> <p>5. センターキッチンと対面型キッチンのコミュニケーションにおける違い</p> <p>センターキッチンは対面型キッチンに比べアイランド部を四方から囲める空間であるためさらにオープンな環境である。すなわち、自然に家族の家事参加を促す機能があり、主婦の団らん参加を阻害しないことがあげられる。</p>

タイトル	「共働き家族の暮らしと意識に関する調査」について
発表年月日	2014年2月5日
発表冊子	株式会社住環境研究所
発表者	株式会社住環境研究所
キーワード	時間 内食 中食 団らん
概要	<p>調査対象: 共働き家族⇩夫婦共フルタイムで働く子育て家族 共働き家族⇩妻がパートタイム勤務 専業主婦家族 * 各層、末子年齢「未就学児」「小・中学生」が半々</p> <p>1. 働くママは「働いていたい」 働くママの多くは「就業は自分に合っている。できれば就業していきたい」と思っている傾向が強く、夫より就業意欲が強い結果となった。必ずしも家計のためではなさそうだ。</p> <p>2. 「時間的ゆとり」がない。増やしたいのは「家族の時間」 共働き家族の中でもフルタイムママが特に「時間的ゆとりがない」と感じているようだ。また、平日に子供といる時間についてはフルタイムママと専業主婦との差が大きく、「5 時間以上」と答えたのは約40 ポイントの差があった。</p> <p>3. 「メリハリ」「分担」「オープン」 フルタイムママの家族では家事を休日にまとめて行う傾向がみられた。また、他の家族に比べ、夫が何かしらの家事を行っている比率が高く、家事は家族と一緒にオープンな環境で行いたいという意向が高い傾向がみられた。</p> <p>4. 気掛かりは「子供」に関すること 共働き家族の困りごとはフルタイム・パートタイム共に「子供の病気」や「子供だけの留守番」などの子供に関することが多くみられた。</p>

タイトル	女性の就業時間及び子供の存在が食の簡便化に及ぼす影響
発表年月日	2016年8月1日
発表冊子	農業経営研究農研機構・東京農業大学・農林水産政策研究所
発表者	農業経営研究農研機構・東京農業大学・農林水産政策研究所
キーワード	食事形態別 簡便化食品の利用回数
概要	<p>調査形態: Web アンケート調査 対象: ドウ・ハウスに登録している 首都圏在住の20~50代女性 その中の夫婦世帯・子持ち世帯</p> <p>1. 食に対する負担感 子供がいる方が食に対する負担感が高いが、子供がいない場合との差は7段階評価で0.2と小さく、就業時間による差は確認されなかった。</p> <p>2. 食事形態の違い 子供いない場合はいる場合よりも外食と中食(家庭外で喫食)の回数多い。また、就業時間が「週30時間以上」では内食が少ない傾向にあった。 夫婦子供世帯に限ると、中食(家庭外で喫食)と中食(家庭内で喫食)の回数は、週30時間以上が「就業なし」に比べて多いが、外食と内食では差は見られなかった。</p> <p>3. 一次加工済みの内食材料野菜 「生鮮野菜」について世帯ごとの有意差は確認できなかった。 一方で、「取り揃え済み野菜セット」は子供がいる世帯で利用回数が多く、子供がいない世帯の2枚程度にもなった。その他の「一次加工済みの内食材料野菜」全てで子供のいる世帯の利用回数が多かった。しかし、就業時間別では利用回数に差のある食品はなかった。</p> <p>4. 「主食」 「中食商品」のうち「主食」に関して、「週30時間以上」は「就業なし」あるいは「週30時間未満」よりも、「おにぎり」「サンドイッチ」「弁当」の利用回数が多い傾向があった。 幼い子供がいると</p> <p>5. 子供がいると その子供が幼ければ幼いほど、たとえ就業時間が長くても外での食事(外食、家庭外で食べる中食)は抑制される傾向にある。</p> <p>6. 就業時間はあまり関係していない 中食商品以外の何らかの調理が必要な簡便化食品については、子供の有無が利用回数に影響しているが、就業時間は影響していない。</p> <p>7. 全て外部化 子供がいない世帯の場合、就業による時間制約は、調理過程の一部を外部化するというよりは、弁当など主食を含む食品の利用により全てを外部化する形で簡便化を進めている傾向にある。</p>

タイトル	共働き・子育て世帯の消費実態(3)
発表年月日	2018年3月12日
発表冊子	ニッセイ基礎研究所レポートニッセイ基礎研究所 生活研究部
発表者	主任研究員 久我尚子
キーワード	利便性重視 代行サービス
概要	<p>1. 共働き世帯では「住居」に対する消費が少ない傾向 共働き世帯は専業主婦世帯に比べ持ち家率が高いため、このような結果になったと考えられる。</p> <p>2. 「教育」「交通、通信」「その他の消費支出」が多い 共働き世帯の方が私立へ子供を通わせている家庭が多く、塾代も多くかかっているために教育費が高くなっているとみられる。また、「交通、通信」については、共働き世帯の方が自動車やスマートフォンの所有台数が多く、買い替え頻度も高い可能性が考えられる。在宅率が低いため通信手段の必要性も高くなっているのだろう。「その他の消費支出」については雑費が多く使途不明金が多い。</p> <p>3. 「食料」が最も多く利便性重視 共働き世帯と専業主婦世帯共に「食料」が最も多く、「外食」が「食料」の2割強を占めている。中でも共働き世帯の場合は妻の収入が多いほど「外食」や「調理食品」が多く食材が少ない傾向がみられた。また、共働き世帯では「外食」や「酒類」、「肉類」が多く、「野菜・海藻」や「乳卵類」、「果物」が少ない傾向にあった。</p>

タイトル	保護者(料理の作り手)の就労状況が保護者や児童生徒の食生活等に与える影
発表年月日	2016年7月
発表冊子	日本食育学会誌
発表者	中津井貴子・長坂祐二(山口県立大学大学院健康福祉学研究科)
キーワード	食への意識 就労形態の変化
概要	<p>調査対象: 山口県岩国市市街地の郊外にあるC 中学校・A 小学校・B 小学校の児童生徒、保護者(食事担当)</p> <p>* A B 小学校はC 中学校の学区内</p> <p>* 実施期間: 2012.9 2012.10</p> <p>1. 中学生になると有職(週40 時間未満)の保護者増加 子供が小学生の頃に比べ中学生になると家事専業・有職(週40 時間以上)の保護者が増加した。また子供の食事作りを父親が担当している場合にはその全てが就労していた。</p> <p>2. 家事専業の保護者(小学校)は意識高め 有職の保護者に比べ家事専業の保護者は「保護者の食事を作る時の意識」が高く「保護者の食生活」も良かった。また、「子どもの食生活」も良かった。一方で「子どもの食生活の悩み」を多く抱えていた。その背景として、悩みを相談する相手がいないことが考えられる。また、「子どもへの食教育」、「子どもの食経験」、「子どもの学校生活」については、保護者の就労状況による有意差はなかった。</p> <p>3. 家事専業の保護者(中学校)も意識高め 小学校の保護者と同じく有職の保護者に比べ家事専業の保護者の方が「保護者の食事を作る時の意識」が高く、「保護者の食生活」も良かった。しかし、「子どもの食生活」や「子どもの食生活の悩み」については就労業況による有意差はなかった。その背景として、中学生になると友人との付き合いなどで家族の個人化が進むので食生活に関して保護者の影響や学校での食育活動の影響が表れにくいことがあげられる。</p> <p>4. 食事作りにかかる時間は就労形態に関係ないかも!? 食事作りに満足している母親は家族と密なコミュニケーションがあり、就労形態に関わらず食事作りに長い時間をかけている。すなわち、食事を作る母親の満足度や意欲を高めるためには、ゆとりを持って作った料理を会話のある食卓で家族に美味しいと言って食べてもらうことが大切である。</p> <p>5. 子どもへの食教育 「保護者の食事を作る時の意識」が高いことが「子どもへの食教育」の実践に繋がっていないことが推測される。しかし、一方では、「母親の調理態度」と「父親の調理態度」の積極性は「子どもの調理態度」にプラスの影響を与えており、子どもへの食教育の重要性を保護者に知ってもらい取り組みが必要であると考えられている。</p>